

わにまーる放課後塾

ODEN (Okamachi Deep Education Network)

 コース
初動事業

申込内容

■事業の概要

ひとり親家庭の子どもや外国人家庭の子どもの学習サポートと居場所づくり。週2回放課後に教室を開き、学習支援だけでなく家庭や学校の悩みを聞いたり、思いを共有したりすることで、精神的なサポートを行います。

■目的

ひとり親家庭や外国人家庭の子どもの学習サポートをすることで、経済的困難などの家庭環境に関係なく学習の機会をつくる。学校や家でもない第3の場所をつくることで、子どもが毎日をいきいきと過ごせるようサポートします。

■交付決定額 100,000 円
(事業予算 580,000 円)



8月28日(金)の午後7時前、「おかまちコミュニティカフェ kitto」に、子どもたちが続々と集まってきました。『わにまーる放課後塾』は、毎週2回、午後7時から午後9時まで開催されています。

最初は和気あいあいとおしゃべりをしている子どもたちでしたが、午後7時になると自主的に、みんなが机に向かって勉強を始めました。

この塾は、それぞれがやりたい科目を勉強したり、わからない箇所を講師に質問したりして、自分にあったペースで学習を進めていくというスタイル。それぞれがそれぞれの課題に向かい集中している空間は、生徒どうして教え合っている場面も多く見られ、堅苦しくなくリラックスしながらも学習に取り組める、独特の雰囲気を持っています。

この日集まったのは15名。小学生、高校生、大学に行くために日本語を勉強している外国人家庭の生徒など幅広く、友達のお誘いで来たという子どももいれば、兄弟で放課後塾に来ているという生徒たちも見られました。



『わにまーる放課後塾』の時間構成は、40分間の勉強時間と20分間の休憩時間、そして再び40分間の勉強時間、最後に20分の余暇時間という計2時間の組み立て。少し長い休憩時間を設けているのが特徴です。休憩時間は、友達とおしゃべりをしたり、勉強の続きをしたり、思い思いの時間を過ごし、講師もギターを弾くなど、生徒に混ざります。学校でも、家庭でも、一般的な塾でもない生徒たちがいきいきできる

「居場所」がそこに立ち現れます。

「大学生活のなかで、何か面白いことをしてみたかった」と活動のきっかけを話してくれた副代表の松野雄太さんと韓祐樹さんは大阪大学の学生で、団体の中心メンバーです。現在は3人の講師で運営していますが、「子どもたちのための塾を続けていくためにも、講師を集めることが必要」と、今後はチラシを大学で配るなど広報にも力を入れていく予定です。

◎今後の予定 (平成27年度)

放課後塾の開講 実施日 毎週火・金曜日午後7時